地域のチカラを応援する遠野健康福祉の里のニュースレター

「つながる・支え合い」たより

令和４年10月号
（第１０号）
発行：遠野市健康福祉部
健康福祉の里

生活支援コーディネーターの活動から
地域で「つなぐ・つながる」⑭

楽しく知ろう　夏対策!!
～ 暑い夏を乗り切るための紙芝居づくりから ～

丸ごと相談員附馬牛地区担当　菊池　静子

▼つながったストーリーを紹介します

高齢夫婦や一人暮らし高齢者も多く、日頃から見守りや支え合い、地域の繋がりが求められます。今回は、住民の些細な生活上の不安の声を逃さず、丸ごと相談員につないだ通いの場の世話人さんと、その声に対して、一人で解決しようとせず、関係機関とつながりを大事にしながら取り組んだ丸ごと相談員の「つながったストーリー」をご紹介します。

▼お茶っこの会で紙芝居を披露しました

完成した紙芝居を早速、「お茶っこの会」で披露。「へえーそうか。」、「あー知ってたよ。」、「うんうん。」とメモ取る人、質問する人、反応は様々です。せっかくなので、サテライト、サロン等でも披露しました。

紙芝居を見た後の「お茶っこの会」では、利用日に「さあ、にぎやかにいただく」の表を持ち寄り、互いに見せあっていたと世話人さんからうれしい報告がありました。

紙芝居制作は、一人のつぶやきがきっかけとなり関係機関につながりました。また専門職からの意見やアドバイスが大きな「力」となったと感じています。私自身も一人の力では解決できないことが多々あります。今後も関係機関との繋がりを大切にし、困ったときには「助けて！」と言葉に出し、皆さんの力を借りながら、地域の皆さんを支援していきたいと思います。

つながったストーリー

令和3年12月に誕生した大野集落の通いの場「お茶っこの会」（利用者５～６名、世話人４名）を利用している80代の人がこうつぶやいていました…

『夏が怖い』と。

世話人が理由を聞くと、昨年熱中症で大変な思いをした経験から出た言葉だということが判明しました。

↓

世話人：丸ごと相談員へその声をとどける。

↓

丸ごと：熱中症について詳しく知ることが必要と考え、専門職である福祉の里の保健師へ相談。

↓

【紙芝居でわかりやすく伝えよう】
丸ごと相談員と、保健師・栄養士が対応について打ち合わせを行い、対象となる高齢者に分かりやすく伝えるために、丸ごと相談員が保健師などからの助言をいただき、紙芝居を作成することとしました。
夏は、熱中症予防だけでなく夏バテによる低栄養も考えられるため、栄養士が作成した食生活チェックシート「さあ、にぎやかにいただく」も配布し、バランスのよい食生活をすることの意識付けも行っています。

【ポイントとしたこと】
一方的な読み聞かせだけでなく、ゲーム形式を取り入れ、みんなで考える場面も設けました。

【右図】
手作りの紙芝居の一部。
【左図】
「さあ、にぎやかにいただく」は、一日に摂りたい栄養素の頭文字です。

令和４年10月号もくじ ・・・ P1 楽しく知ろう 夏対策!!（附馬牛町）／P2～3 密着取材！「世界アルツハイマーデー2022記念イベント」（地域包括支援センター）／P4 先人たちの取組みを学び、自分たちで支え合える地域を目指して（福祉課）／P5　シリーズ福祉行政の今⑤（地域包括支援センター）／P6　平時から災害に向き合う～令和4年度市防災訓練より～（福祉課）

くろーず あっぷ！

密着取材！「世界アルツハイマーデー記念イ

9月21日は、世界アルツハイマーデーであることを皆さんご存じでしたか？この日は普段から認知症の人を介護している家族の方、介護の事業所のスタッフ、地域包括支援センターの職員らが一体となって、認知症に関する啓発活動を行っています。取材班はその一日に密着しました。

みんなで！ － めがね橋オレンジライトアップ －

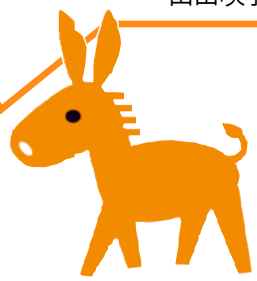
PM6:40

道の駅みやもり緑地広場にて、めがね橋（宮守川橋りょう）を認知症支援のシンボルカラーである「オレンジ」にライトアップしました。当日は点灯式を開催して、ライトアップの様子を動画配信サービス「YouTube」で全国で行われている会場と中継しました。

めがね橋がオレンジ色に染まりました！

これからもみなさまに認知症にでも関心を持っていただき、認く理解すること、必要な時に手れる人材の育成をすることに尽症の方やその家族がずっと安心るまちづくりをしてきたいと思

遠野市認知症地域支援推進員
山田咲子



見て聞いて！

PM1:30

遠野ショッピングセンターとぴあ示や認知症サポーター養成講座のを設置し、認知症に対する関心を

食事から改善！栄養相談コーナー

展示コ

ちょこっと めも

認知症支援のシンボルカラーが「オレンジ」なワケ

認知症のシンボルカラーであるオレンジ色は、江戸時代に活躍した陶工、酒井田柿右衛門（さかいだかきえもん）が造った赤絵磁器から来ています。夕暮れの柿の深くて豊かな柿色を苦心の末再現した赤絵は大いに世界を驚かせ、日本の磁器が世界に輸出されるきっかけになったそうです。そうしたところから日本から世界に広く知れ渡ることを願って、柿の色＝オレンジ色がイメージカラーになりました。

ベント2022」

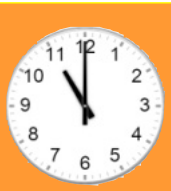
世界アルツハイマーデーについて

1994年に国際アルツハイマー病協会（ADI）が世界保健機関（WHO）と共同で毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」と制定しました。

毎年この日を中心に、認知症に関心を持ってもらい、世界の患者と家族に援助と希望をもたらす事を目的とし、認知症に関する啓発活動を実施しています。

なぜ、9月21日かというと、1994年9月21日、スコットランドのエジンバラで第10回国際アルツハイマー病協会国際会議が開催され、会議の初日であるこの日を「世界アルツハイマーデー」と宣言したのがきっかけになっています。

ついて少し
知症を正し
助けしてく
力し、認知
して暮らせ
います。



AM11:00

知ってほしい！　－ 市内での宣伝活動 －

遠野ショッピングセンターとぴあ、ビッグハウス遠野店、地域活性化センター（mm1）の3か所において、認知症を広く知ってもらうためにマスクやチラシ等を配りながら宣伝活動を行いました。

遠野ショッピングセンターとぴあ

ビッグハウス遠野店

－ 展示・体験コーナー －

1階セントラルホールにて、認知症に関するパネル展
活動紹介、認知機能チェック体験など様々なコーナー
高めていただきました。

ーナーのブース

認知機能チェック体験

宮守町　mm1　（地域活性化センター）

先人たちの取組みを学び、自分たちで支え合える地域を目指して

地域福祉推進研修会（小友町）

地域ぐるみでの支え合いに、大橋先生からエール

市社会福祉協議会主催（市共催）による地域福祉推進研修会が九月十四日（水）小友地区センターにおいて開催されました。この研修会は、地域住民による支え合いの取り組みを推進することを目的として、「小友町の「新たな地域支え合い」について～先人たちの取組みに学ぶ～」をテーマに地元を中心に約三十名の方々が参加しました。

講師には、日本地域福祉研究所理事長　大橋謙策先生にお越しいただきました。大橋先生は、長年にわたり遠野市の福祉に携わっていただいており、今回のテーマにある「先人」の一人であります故福嶋武男氏とも交流があった先生です。

研修会では、出席した団体・機関からの活動を紹介していただくとともに、日頃から感じていることに対して、先生から助言をいただく形式で進みました。

小友町では、地域ぐるみでの支え合い、産業、まちづくりが取り組まれています。お話を聞き、地域の関係者一人ひとりが自分たちの手で「いつまでも安心して暮らせる」地域にしていきたいという熱意を感じました。そのような熱意を受け、大橋先生からは、全国各地を調査して得た参考事例や近年の福祉制度の動向などを詳しく紹介していただき、小友での取り組みを心から応援していただいているのが伝わりました。

生まれ育った地域、これから住み続ける地域、住むきっかけはそれぞれだと思いますが、「安心してみんなで楽しみながら暮らし続けていけるために」みなさんの地域に必要なことは何でしょうか。遠野市では「新たな地域支え合い」を目指して、一人ひとりが出来ることを持ち寄り、それぞれがつながりあいながら取り組まれる地域づくりを推進しています。

最後に、住み慣れた「小友」を安心して住みつづけられる地域にしていくために引き続き努力していくことを会場の皆さんと確認し合い、記念として参加者の皆さんで集合写真を撮影しました。

（公財）テクノエイド協会理事長
（特非）日本地域福祉研究所理事長
日本社会事業大学名誉教授

大橋謙策先生（78歳）

主な学歴
昭和42年３月　日本社会福祉事業大学卒業
昭和48年３月　東京大学大学院教育学研究科博士課程（社会教育専攻）満期退学

主な職歴
昭和59年４月　日本社会事業大学教授
平成17年４月　日本社会事業大学学長
平成23年４月　日本福祉大学・淑徳大学客員教授（～現在に至る）
平成26年４月　東北福祉大学大学院教授

主な社会的活動
平成12年１月　（特非）日本地域福祉研究所理事長
平成23年７月　（一社）テクノエイド協会理事長
平成26年６月　（一社）日本ユニットケア推進センター副会長
など

小友地区センターと第2会場となる市総合福祉センター（松崎町）とは、ビデオ会議システムで結ばれ、全体で約70名の方が参加。質問は第2会場からもあり活発な意見が交わされました。

誰もが住み慣れた地域で暮らしていけるように
～ 遠野市地域ケア推進会議の取り組み② ～

シリーズ福祉行政の今⑤

あらかじめ、私のために、家族のために
―ACPの推進のための取組み―

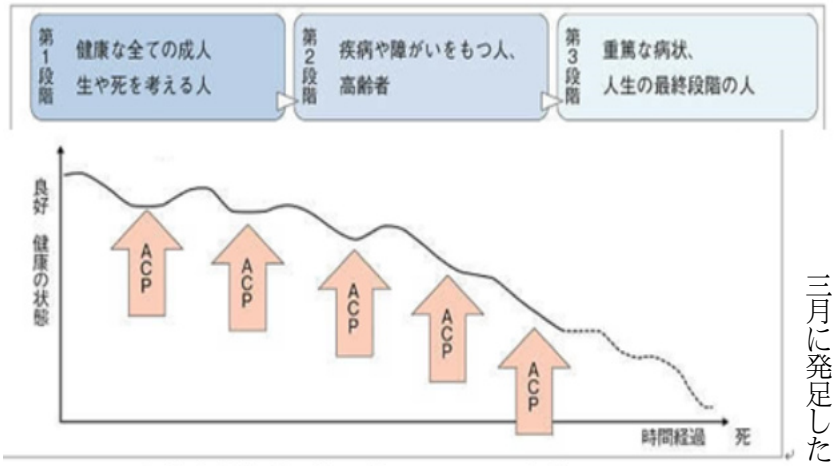


図 健康段階別に繰り返されるACPの実践
（引用 健康長寿ネット）

十月十三日（木）、今年度三回目となる「圏域レベルの地域ケア推進会議」を開催しました。今回は、「ＡＣＰ（アドバンス・ケア・プランニング）推進のため、自身が実施可能な取り組みについて」をテーマとし、行政説明とグループワークを行いました。（※ＡＣＰについては、左のミニコラムをご覧ください）

遠野市がＡＣＰ推進に取り組むこととなった経緯は、地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた一つ中にある医療と介護の連携推進の取り組みの一つとして平成三十一年三月に発足した「新しい地域の医療と介護を考える会」（以下、考える会）があります。目標の一つとして、ＡＣＰの考え方を市民に意識啓発を図ること及び効果的な利用が図られるよう、切れ目のない医療と介護の提供体制の構築を目指すことを掲げ、優先課題として取り組むものとして決定したことにあります。

今回の地域ケア推進会議には、ケアマネジャー、施設相談員、丸ごと相談員など、その人の健康状態に直接かかわる立場にある専門職が会し、上の図を参考にして、各々の立場から実施可能なことについて、グループワークを行いました。

参加した皆さんの振り返りからは、「ＡＣＰに対する理解が深まった」、「日々の業務で活用できるようにしたい」など、前向きなご意見を多数いただきました。

今回の会議の意見を考える会にフィードバックし、ＡＣＰの普及啓発に向けた取り組みの参考としたいと考えています。

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）とは？

直訳すると、

Ａ…アドバンス（進める・前進する・早める）
Ｃ…ケア（注意・用心・配慮・介護・看護）
Ｐ…プランニング（企画・計画・立案）

となります。

万が一の時に備えて、自分が大切にしていることや望み、どのような医療や介護を望んでいるかについて、自分自身で考えたり、あなたの信頼する人たちと話し合ったりすることをいいます。

厚生労働省では、ACPがよりなじみやすい言葉となるよう「人生会議」という愛称を決定し、普及啓発を行っています。

なお、ACPは、重篤な病状の方のみのものではなく、健康な段階から、何度も考え、見直してよいものです。ご自身で決めたり、ご家族と相談して決めたり、いつでも何度も変更することは差し支えありません。

Information インフォメーション

後藤誠子（ごとうせいこ）さん講演会
～不登校・ひきこもりの親が幸せな理由～

たんぽぽ会（遠野地区不登校を考える親の会）では、息子さんの不登校・ひきこもりをきっかけに、北上市で誰でも安心して過ごせる居場所「ワラタネスクエア」を開設し活動している、NPO法人笑いのたねプロジェクト代表 後藤誠子（ごとうせいこ）さんによる講演会を開催します。

■日　時　11月20日（日）　受付13時より
　　13時30分～15時30分

■場　所　遠野市総合福祉センター
　　レクリエーション遊戯室

■参加料　一人500円
　　（当日会場にていただきます）

■申し込みはFAXにてお願いします。
たんぽぽ会（遠野地区不登校を考える親の会）
代表　多田静枝さん
ＦＡＸ　0198-62-6186

平時から災害に向き合う

～ 令和4年度市防災訓練より ～

▼市防災訓練が開催され 個別計画が活用されました

九月四日(日)に開催された防災訓練では、自主防災組織に対して「避難行動要支援者把握訓練」が行われることとなり、災害時避難のための個別避難計画※（以下「個別計画」といいます）の情報が活用されています。

訓練内容は次の通りです。

▼自主防災組織　自主防災組織運用訓練、避難行動要支援者把握訓練、特設公衆電話設置訓練、地区センター、地区センター班　地区センター開設訓練、特殊公衆電話設置訓練、報告訓練

（本年度は、住民避難訓練を行わず、自主防災組織を中心とした運用訓練となりました）

特にも、個別計画の情報を活用した避難行動要支援者把握訓練は、初めての訓練であり、市消防総務課が開催した研修会に参加し、説明を行いました。

なお、防災訓練では、自主防災組織、消防団らが、二、一〇〇人の避難行動要支援者を確認したと報告がありました。（※市の災害時避難要支援者の取組みについては、「つながる・支え合いたより第二号に詳しく掲載しています）

▼平常時から「いざというとき」に向き合う

個別計画に関する情報は、遠野市社会福祉協議会にデータ管理の業務を委託し、避難支援関係者に限り情報を提供するほか、定期的な個別計画の情報を訪問等により調査・更新を行っています。

私たちとしては、避難支援者名簿の整備や個別計画の作成支援を通じて、自治会、民生児童委員・主任児童委員、自主防災組織の方々などの地域の皆さんにご協力いただき、日頃（平常時）の見守り体制の構築にひろがる取り組みを推進していきたいと考えています。地域の皆さんがお互いに声を掛け合い、平常時からいざというときの対応など、地域ぐるみで見守り支援を行いましょう。

（右）一昨年開催した消防総務課との情報交換会の様子。支え合いマップづくりを含め、市では、丸ごと相談員と協働し「平常時」の見守り支援の体制づくりのお手伝いをしています。

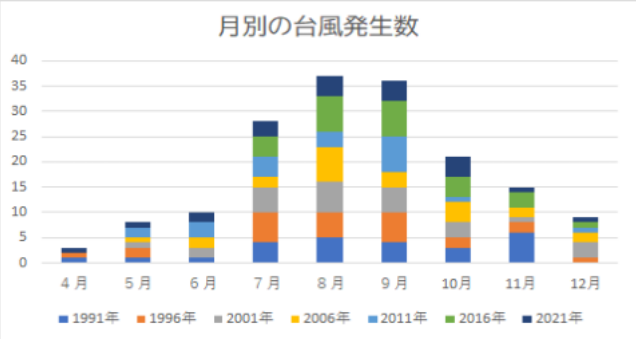
ちょこっとめも

自主防災組織の関係者の方へ

豪雨、台風が起きやすい夏から秋にかかる前に、個別計画等の情報の確認をお勧めしています

気象庁ホームページでは、「30年間（1991から2020年）の平均では、年間で約25個の台風が発生し、約12個の台風が日本から300km以内に接近し、約3個が日本に上陸しています。発生・接近・上陸とともに7月から10月にかけて最も多くなる」とのことです。

計画的に情報の確認をお願いします。



編集後記

「つながる・支え合いたより」十月号（第10号）をお届けします。九月の「地域福祉推進研修会」の開催にあたり、平成十二年に市社会福祉協議会が発行した「遠野市社会福祉協議会史　地域福祉をささえて」にある、社協実践活動者による座談会を拝読させていただきました。なお、これには出演者の一人として福嶋さんが入っておりますが、保育園の設立などをはじめ、多くのことに尽力いただいたということを知りました。

先人たちが今の時代をどう見て感じているのか直接聞くことは出来ませんが、いつまでも安心して暮らせる地域を目指していたのは今も昔も変わりないのではないかと思っています。

（支え合い支援担当）

アルツハイマーデーイベントでのめがね橋(列車通過中)